

滋賀県の湖東地方には、平野部に独立した山々がいくつも見られます。これは、まるで湖に浮かぶ島のように見えるために、湖東島状山地という名がつけられました。

これらの山々が点在する蒲生野に箕作山があり、そこから南へ延びる尾根(太郎坊山)の先端に巨大な岩石が露出して見えます。この岩石の真下には、地元で太郎坊さんと呼ばれ信仰されている阿賀神社があります。

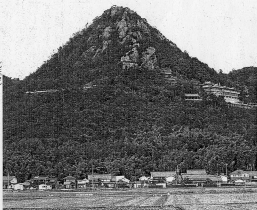
近江鉄道八日市線を太郎坊宮前駅で下車すると、駅前に大きな鳥居があり、そこから北に向かって真っ直ぐな道が続いています。この道を行くと太郎坊宮阿賀神社(通称太郎坊さん)にいたります。

太郎坊山の麓から約700

段の石段を登ると参拝殿に到着し、そこからさらに急な石段を登ると本殿に至ります。神社の祭神正哉吾勝勝速日天忍穗耳尊という神様で、天照大神の第一皇子です。敏明朝に聖徳太子がこの地に瓦屋敷を創建した際、夢にあらわれたこの神様を祀ったことに始まると伝えられています。

太郎坊山は山頂に巨岩をいれたとき、山の形が横から見ると三角形をしているなど、古代の信仰の対象である神奈備山であり、野洲の三上山や大和

## 太郎坊宮阿賀神社



太郎坊山遠景

山を見上げるような場所に、遙拝所である神社を建築してきます。

また、この山の麓には、『近江輿地誌略』に桓武天皇の延暦18年(799)、嚴澄が太郎坊山の天狗の助力を得て創建したと言われている赤神山成願寺があり、中世には修験の道場として崇敬されました。本尊の薬師如来の縁日が毎月八日であったことから、この日に市が立てられたことにより「小脇の八日市」と呼ばれ、八日市の地名の由来になったとも言われています。ちなみに、太郎坊とは天狗のこと、当時の修験者の姿を伝えたものとされています。

の三輪山などと同じ神体山であると考えられます。神体山は山自体が信仰の対象であり、その

# 伝説に満ちた山見上げる

太郎坊山は遠方からでもわかる、奇岩が露出した山容をしていることから、磐坐信仰から発した様々な伝説に彩られています。

(滋賀県埋蔵文化財センター 三宅 弘)